

序

女性骨盤部には子宮や卵巣等の女性生殖器に由来する様々な病変が発生し、多彩な画像所見を呈する。女性骨盤部の画像診断に不慣れな若手医師がまず頭を悩ませるのはおそらく、正常な子宮や卵巣はホルモン状態など様々な環境の変化に伴いダイナミックに変化するため、目の前のこの画像は果たして正常範囲なのか異常なのか、というところだろう。さらに、異常とすれば腫瘍性か非腫瘍性か、腫瘍性病変とすれば、悪性、境界悪性、良性のいずれなのか。また、婦人科疾患と鑑別を要する泌尿器、消化器、後腹膜など他臓器由来の病変も発生する。これらの正確な診断は、妊孕性や機能の温存を含めた適切な治療方針選択に直結するため、画像診断の果たす役割はきわめて大きい。

初学者が婦人科疾患の読影にあたり、分厚い画像診断の教科書を開き、ずらりと並んだ疾患名の目次に圧倒され、途方に暮れることも少なくない。代表的な疾患を網羅的かつわかりやすく解説した定番書がいくつかあるが、本書ではそれらに加え、「画像所見からどのように鑑別を挙げ、診断にたどり着くか?」「どのようなポイントで所見を拾っていくのか?」「それぞれの所見が示す意味や病態」に焦点をあてて解説し、女性骨盤部に発生する多彩な疾患を多角的に理解できる実践的な内容となっており、日常診療においても大きな助けになるものと思われる。KEYBOOK Plusシリーズは、診断に迷った際、「疾患別とは異なる観点から診断に迫ることで、知識の“増強効果 (enhancement)” が得られ、診断への道が開ける書籍」をコンセプトに企画された。本書もその理念に基づき、また幅広い内容をそれぞれエキスパートの先生方にご執筆いただいた。さらに、適宜、鑑別診断をまとめた表や、decision treeなどを盛り込み、視覚的に理解しやすく、全体像を把握しやすい構成となっている。

本書が、より自信を持って画像診断に挑むための心強い支えとなり、日々の診療の一助となれば、これに勝る喜びはない。

最後に、多忙な中で本書の執筆にご協力いただいた先生方、ならびに本書の企画・編集に尽力いただいた株式会社Gakken メディカル事業部 編集課の皆様、心より深謝申し上げます。

2026年2月

徳島大学医学部放射線科

竹内 麻由美